旭医大 献腎移植可能に

手術待つ患者ら歓迎

道北で唯一、腎臓移植手

術を行う旭川医科大学病院が、脳死者や心停止の人から提供される献腎移植手術を行える病院に認定された。健康な家族から提供された腎臓を移植する生体移植手術は昨年9月の初手術以降、すでに7例を実施。献腎移植手術も可能になったことで、腎臓病患者からは歓迎の声が上がっている。

る。

臓器の移植手術を行う病院を決める移植関係学会合同委員会に4月に申請し、5月26日に認定された。道内では市立札幌病院や市立釧路総合病院などに続き7カ所目。市立旭川病院が担当医の退職のため腎臓移植手術を19年3月末で休止しており、献腎移植は道北で1年2カ月ぶりに可能にな

った。

旭川医科大学病院は昨年9月、松野直徒特任教授が率いる医療チームが母子間の生体腎臓移植手術に成功。古川博之病院長は「献腎も可能となり、家族に健康な臓器提供者がおらず手術を諦めていた患者にとつてチャンスが広がる」と期待する。松野特任教授は「地域密着の病院でありながら高度医療も提供できる総合力の高い病院と認められた」と喜ぶ。

人工透析患者とその家族でつくる「旭川地方腎友会」

によると、旭川と近郊には約1300人の患者がおり、献腎移植手術を望む人も多い。近江谷守事務局長(68)は「移植希望者は年1回、移植施設を受診する必要がある、近くの病院で受診も手術もできるのは心強い」と話す。同会は、臓器提供の意思を表示するドナーカードの普及活動も行っており「市民に身近な病院で脳死者の移植手術が行われることで関心が高まれば」と期待する。

(山中いずみ)